

2004 年度 委員会活動成果報告

(2 0 0 5 年 3 月 1 0 日作成)

委員会名	木造建築構法小委員会	主 査 名 : 源 愛日児
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会	委員長名 : 服部岑生
設 置 期 間	2004 年 4 月 ~ 2008 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	木造建築構法に関する構法計画上の研究課題を推進する。 1) 木造建築における新しい技術や構法開発の情報収集 2) 日本の木造軸組建築の構法史に関する研究 3) 木構造の研究者との連携と、研究の到達点に関する情報交換 4) 在来および伝統木造構法の性能の再評価と性能向上のための技術 5) アジア各地の木造建築構法に関する体系的な情報収集	
委員構成 (委員名 (所属))	活発な研究活動を展開している中堅・若手研究者を中心とするメンバーである。 大学、公的研究所の研究者、実務者を委員としている。委員の所属機関は各地に広がっている。	
設置 WG (WG 名 : 目的)	伝統木造構法WG (日本の伝統的木造構法の木造架構の変遷を調査), アジア伝統木造構法WG (アジアに広く分布する木造建築の構法に関する情報を収集)	
2004 年度予算	1 6 4 , 0 0 0 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	2004/06/25 18名 2004/09/11 7名 2004/12/22 8名 2005/01/25 9名 2005/03/26 13名
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) 1. 研究会活動 研究会 1 長野県臼田町「はねだし造り」民家の特徴と保存計画の進行状況 研究会 2 ベトナム伝統的民家の架構実験の経過報告 研究会 3 山形県における雪囲いの動向 研究会 4 (仮題)「民家の和様・大仏様・禅宗様」(予定) 他に構法関連合同委員会を 4 回実施。 2. PD「伝統構法の再考 - 指付技法と指物-」の実施(8月31日、北海道大学(日本建築学会大会開催期間中)) 3. 伝統木造構法 WG : 調査、データ分析および研究会(毎月)
	委員会 HP アドレス :
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 1) 木造建築における新しい技術や構法開発の動向の整理 企業、学術機関等の構法開発者を招いて研究会を行い、委員会資料としてまとめる。 2) 日本の木造軸組建築の構法史に関する研究 伝統木造構法 WG の 4 年間の成果をもとに、歴史・構造の研究者ならびに設計実務者との共同研究会を開催し、分析結果の有効性や今後の展望について議論する。

その他評価すべき 事項	
----------------	--